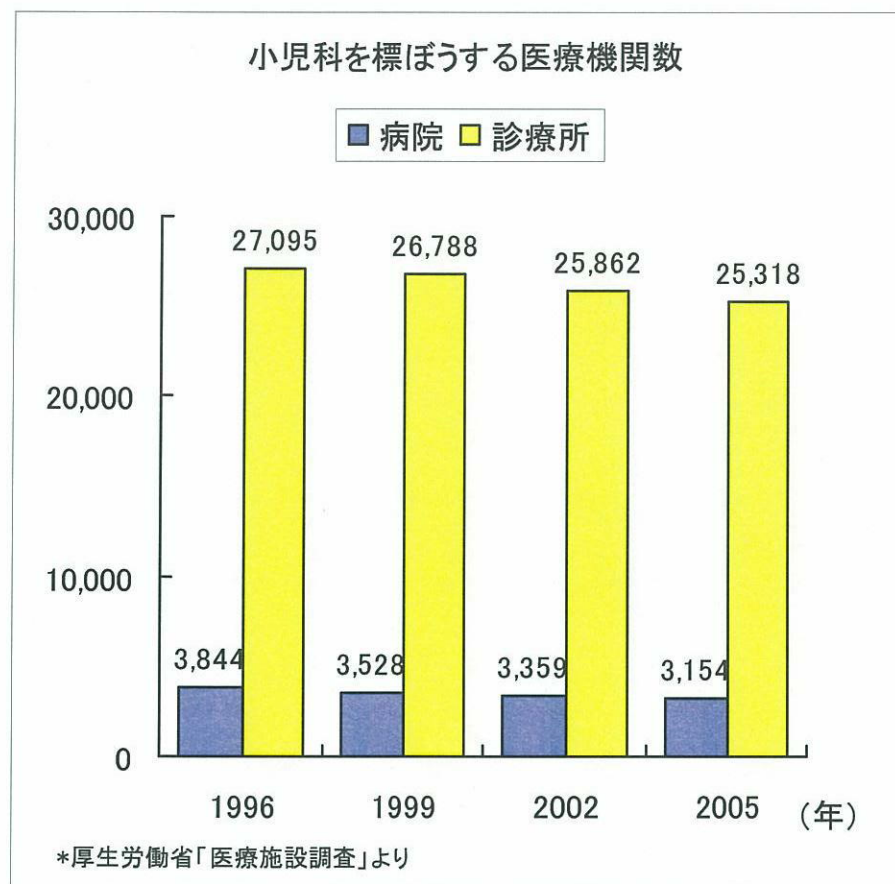


小児科を標ぼうする医療機関も減っている。過労死する医師には、小児科医が少なくない。



医師の過労死・過労自殺(年齢は当時)

1992年4月	茨城・勤務医(外科)	29歳
1996年3月	大阪・勤務医(麻酔科)	33歳
1997年8月	千葉・勤務医(女性・小児科)	43歳
1998年8月	大阪・研修医	26歳
1999年8月	東京・勤務医(男性・小児科)	44歳
1999年9月	東京・部長医師	53歳
2000年9月	神奈川・研修医	30歳
2001年1月	沖縄・嘱託医	30歳
2001年6月	福岡・勤務医(内科)	43歳
2003年10月	北海道・勤務医(小児科)	31歳
2004年5月	東京(離島・歯科医師)	51歳
2004年5月	京都・勤務医(外科)	44歳
2006年4月	東京・研修医(女性)	26歳

*「週刊東洋経済」(2006.10.28、原典は日本医療労働組合連合会調べ)ほかから作成。

1か月に8回の当直。過労による「うつ」だとして、2007年3月に労災認定された。